

一般選抜 B 方式 数学 出題意図

【大問 1】

互いに無関係な小問 4 題からなっている。(1)は三角比の問題、(2)は指定された解をもつ 2 次方程式を作る問題、(3)も 2 次方程式の解に関する問題のように見えるが、実は円の方程式であることに気づいて図形的に捉えると割合に簡単に解ける問題、(4)は三角関数の性質を利用する計算問題。いずれも基本的な理解力をみるもの。

【大問 2】

互いに無関係な、小問よりはいくらか長い 2 題から構成される。(1)は多項式とその導関数のグラフから情報を読み取る問題、(2)は対数や階乗を含む数の大小を判定する問題で、基本的な式の運用能力や対数の理解度を問うている。

【大問 3】

数学 C のベクトルに関するひと続きの出題で、いずれも非常に基本的。ただ、条件を面積比で与えているので、中学以来学んできている図形的な考察力も動員する必要がある。

【大問 4】

数学 A の確率に関する一連の出題。問題自体は非常に易しいと思うが、数式の意味のきちんとした理解を伴った運用力や、確率概念の根本理解を問うている。

【大問 5】

数学 II の微積分に関する基本的な大問。具体的な数字の計算だけには留まらないようになっている。積分にややウェイトが置かれているが、地に足の着いた微積分の総合的な理解度を試す意図がある。